

外国語活動の良さを生かした教科外国語の実践を目指して

一高知市立義務教育学校土佐山学舎の挑戦一

川越 美和 (KAWAGOE Miwa)

高知県高知市立義務教育学校土佐山学舎

要約

本校は2016年度に義務教育学校として開校したばかりの新設校である。特色ある学校づくりの一つとして、外国語教育にも力を入れている。2017年度より、1～4年生では外国語活動を、5・6年生では教科外国語を指導することになった。本稿は今まで行ってきた外国語活動をベースにし、その良さを生かした教科外国語の実践を目指した取り組みの報告である。

(キーワード： 外国語活動, 教科外国語, 英語教育の実践)

1. はじめに

本校は、上で述べたように義務教育学校である。義務教育学校とは、1年生～9年生までの児童生徒が一つの校舎で学ぶ小中一貫の学校である。本校では、効果的な教育活動を目指して9年間で次の3つのブロックに分けている。前期ブロック（1～4年）、中期ブロック（5～7年）、後期ブロック（8・9年）の区分で、教職員もそれぞれのブロックに所属し、連携を取りながら教育を行っている。本校の教育の3つの柱は、「土佐山学」、「ICT教育」、「英語教育」であり、筆者は本校に外国語教育担当として勤務している。

2. 時数及び指導者

本校の外国語教育の2017年度の授業時数及び指導者は次のとおりである。HRT（前期課程の学級担任）、外国語教育担当（前期課程の外国語担当、筆者）、ALT（英会話スクールより派遣）、英語科教員（後期課程所属）の4者が協力しながら授業を行っている。（表1）

表1

学年	時数	指導者
1・2年生	年間10時間 放課後学習(30分週2回)	ALT, 外国語教育担当とHRT
3・4年生	年間35時間	HRT, 外国語教育担当とALT

5・6年生	年間70時間	外国語教育担当，HRT，ALTと英語科教員
7年生	年間140時間	英語科教員，ALTと外国語教育担当
8・9年生	年間140時間	英語科教員とALTで指導

3. 目標

各ブロックで次のような目標を設定している。また、本校の特色の一つである「土佐山学」（総合的な学習の時間）の学習内容と連携させた、学年に応じた「土佐山スピーチ」を全学年で行っている。（表2）

表2

前期ブロック (1～4年生)	あいさつ，歌，ゲーム，絵本の読み聞かせなどを通して，楽しく英語の音声に慣れ親しみながら，コミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。
中期ブロック (5～7年生)	聞くことや話すことを充実し，表情やジェスチャー等も用いながら，コミュニケーションへの関心・意欲・態度を養う。
後期ブロック (8・9年生)	「聞く・話す・読む・書く」の力をバランスよく育てながら，即興的に場面や状況に応じてコミュニケーションを続けることができるようにする。

4. 教科外国語と外国語活動との違いの整理

新設される「外国語科」導入に当たって，教科になると何が変わるのかを整理することにした。まず，時数は年間35時間から70時間に増加する。さらに，学習内容の増加がある。単元の数は変わらないが，扱う語彙の数や活動の量は大幅に増えることになる。それに伴い「話す・聞く」ことについて学習内容の定着を目指すことが求められるようになり，「読む・書く」ことに慣れ親しむこともできるようにしなければならない。そのため，「話す・聞く」活動において，学習内容が定着するための活動の工夫をすること，「読む・書く」活動を取り入れることを意識して単元づくりを行った。ただし，その内容は「聞く・話す活動」で親しんだものであることを心がけて単元を構成することとした。また，活動の見取りだけでなく，よりよい評価を目指してペーパーテストや面接も取り入れることとした。

単元については，文部科学省より提示された外国語年間指導計画例（素案）を参考に，今までの本校のカリキュラムと組み合わせながら作成し，1単元8時間程度で設定した。単元を作る際には，バックワードデザインを意識し，始めにゴール活動を設定，その後，できるようにならなければならないことを1つずつクリアできるように考えた。「話す・聞く」のゴール活動では，何のために活動を行うのかを，「読む・書く」のゴール活動では，誰のために行うのかを意識するようにした。扱う語彙の単語カードについては，始めは絵と文字のカード，慣れたら文字だけのカードに変えるようにした。

変わらないこと

- ・コミュニケーション活動であること

- ・「話す・聞く」活動を充実させること
- ・児童が話したい、聞きたい内容を扱うこと
- ・児童の実態に合わせた学習方法であること
- ・楽しい学習であること

変えるべきこと

- ・「話す・聞く」活動において学習内容が定着するための活動の工夫をすること
- ・読む・書く活動を取り入れること、ただし、その内容は「聞く・話す」活動で親しんだものであること
- ・活動の中で見取るだけではなく、よりよい評価を目指してペーパーテストや面接テストを取り入れること

5. 単元例

4で述べた内容を意識して作ったのが、次の単元である。

7月7日に高知大学短期留学生20名が来校してくれることになった。そこで学生を2グループに分け、半分は土佐山カフェに、もう半分は学校案内にってもらうことにした。児童はすべての留学生と触れ合うことができ、学生には両方の体験をしてもらえるようにした。そこに向けて、1学期の単元をつなげていけるように各学年4つの単元を考えた。

5年生単元

- ・自己紹介をしよう
- ・アルファベットクイズをしよう
- ・好きな色を使って詩を作ろう
- ・土佐山カフェを開いてお客様をもてなそう

1学期のゴール

*アメリカからの留学生を土佐山カフェでもてなすとともに、自分のことや相手のことについて楽しく話すことができる。カフェのメニューを英語で書く。

6年生単元

- ・自己紹介をしよう
- ・学校案内をしよう
- ・好きな色を使って詩を作ろう
- ・学校案内をしたり、日本文化について語り合ったりしよう

1学期のゴール

*アメリカからの留学生に学校を案内したり、留学生と日本文化について語り合ったりすることができる。日本の紹介文を書き、プレゼントする。

4つの単元のうち、重点を置いたのは、それぞれ最後の単元である。その内容は、次のとおりである。

5年生単元メニュー 「土佐山カフェを開いてお客様をもてなそう」

- ①食べ物や飲み物の名前に親しむ。(絵カード)
- ②食べ物や飲み物の名前に親しむ。(文字カード)
- ③「Would you like ~?」の表現に親しむ。
- ④「What would you like?」の表現に親しみ、カフェのメニューを書く。
- ⑤カフェでやり取りする表現に親しむ。
- ⑥学級でカフェを開く。
- ⑦6年生を招いてカフェを開く。
- ⑧留学生を招いてカフェを開く。

6年生単元メニュー 「学校案内をしたり、日本について語り合ったりしよう」

- ①和食の名前や説明に親しむ。(絵カード)
- ②和食の名前や紹介する言い方に親しむ。(文字カード)
- ③自分が紹介したい和食を選び、例文を見ながら紹介カードを書く。
- ④遊びの名前や説明に親しむ。(絵カード)
- ⑤遊びの名前や紹介する言い方に親しむ。(文字カード)
- ⑥自分が紹介したい遊びを選び、例文を見ながら紹介カードを書く。
- ⑦友達とリハーサルを行う。
- ⑧留学生を招いて、学校を案内する。

どちらの単元でも、第1時に上の単元メニューを提示し、毎時間今日はどこまでできるようになったかを確認しながら行った。児童は相手意識を持って学習を進めることができ、達成感にもつながった。

6. 1時間の授業づくり

1時間の授業を、毎回同じ内容を扱うルーティンの活動時間(約10分)と本時の課題解決に向かう学習時間(約30分)、自分の学習活動を振り返る時間(約5分)の3つに分けて指導案を作成するようにした。(表3)

表3 1時間の授業の流れ(例)

活動名	活動内容 *目的
How are you? time	挨拶をした後、話すテーマを提示し、ALTと日直の児童が代表で話をする。その後、他の児童も自由に相手を探して今日のテーマについて会話をする。 *今までに学習した内容を復習を兼ねて使ってみたり、自分から相手を探して声をかけたりする力をつける。
Challenge	先ほどのHow are you? timeで話したことを全体にも質問し、他の

time	<p>児童がそれに答える。</p> <p>*自由な会話の中で使った表現等の確認のために行う。間違いがあれば、最後に、ワンポイントアドバイスとして伝える。</p>
Let's sing a song!	<p>単元や季節等に関係のある歌を歌う。</p> <p>*歌を通して、新しい表現を知ったり、学級や全校で歌う活動を通して、英語に慣れ親しんだりする。</p>
P.P (Review time)	<p>既習の内容を絵や文字を使ってパワーポイントにまとめたものを全員で読む。約1分程度。</p> <p>*既習表現を思い出すことができるように、また、英語を言ったり読んだりすることに慣れ親しむことができるようにする。</p>
Teacher's talk ・ Q&A (Picture Book)	<p>指導者2・3名であるテーマについて会話し、児童はそれを見たり聞いたりする。その後、分かったことをペアで話し合う。最後に、内容についての指導者からの質問に答える。質問は、○×形式が3問、何かについて答える形式が1問。</p> <p>*ある程度まとまった話を聞いて何を話しているかが分かるようになるとともに自分たちが友達と会話するときの話し方を学ぶようにする。</p>
Today's goal	<p>今日の学習課題を知らせ、頑張ろうねと励ます。</p> <p>*何ができるようになればいいかを指導者、児童がともに確認することで、授業のねらいと振り返りの視点を明確にする。</p>
Card Game (絵・文字カード)	<p>基本的に5つのカードゲームを組み合わせ、表現によって少しずつアレンジしながら行う。</p> <p>①Missing game (5枚のカードを提示、1枚を隠し、それが何かを当てる。)</p> <p>②Point & Say (指導者が言ったものを指さし、リピートする。)</p> <p>③Choose, say, flip (自分で1枚選び、それを言ってから裏返す。)</p> <p>④Choose, say, keep (裏返ったカードの中から、自分で1枚選び、それを言ってから自分のものにする。)</p> <p>⑤Bye-bye card game (④のゲームでとったカードのうち、指導者が言ったものを捨てる。カードがすべてなくなったら上がりとなる。)</p> <p>*ゲーム的な要素のあるカードゲームを通して、繰り返し英語表現を聞いたり、言ったりすることができるようにするとともに、ペアで行うことで、自然なコミュニケーションが図れるようにする。</p>
Activity (話)	<p>メインアクティビティとして、今日のゴールに迫る活動を行う。</p>

す・聞く・読む・書く活動)	*今日の学習課題に迫るような活動になっているかを考えて設定する。
Comment time	本時の活動を振り返り、コメントカードに記入する。自分の名前、日にち、曜日、天気、目標はどの程度クリアできたか。それはなぜか。次の時間にどのようなことができるようになりたいかを記入する。記入後、ペアで上の項目について聞き合う。日直の児童は全体の前で言う。 *自分の学び方を振り返り、次どうしたいのかを考えることにより、学習の質を上げる。

7. 評価について

評価については、主に次のような内容を行うことで、聞く・話す（スピーチ・やり取り）・読む・書くの5つについて見取ることができると考えた。

- ①ゴール活動での発表・行動観察
- ②聞き取りテスト（例：自己紹介を聞いて合っているものを○で囲みましょう。）
- ③学習している英語表現のシートを読む（例：自分の夢について書かれたシートを声に出して読みましょう。）
- ④線つなぎテスト（日本語と英語を線でつなぎましょう。）
- ⑤書き写しテスト（例文を参考に、自分の書きたいことを選んで書きましょう。）
- ⑥ALTとの会話チャレンジタイム（あるテーマについてALTと会話しましょう。）

8. 授業以外の活動

①ぐんぐんタイム

1年生から6年生までが体育館に集まり、たてわり班を中心に週1回15分間の外国語活動を行う。それぞれで学習したことを紹介したり、発表したりする場としても活用している。今週の歌を歌ったり、アクティビティを行ったりする。

例:6月の色の学習の場合

1週目→縦割り班で「What is pink?」ゲーム

*ピンク色のものは何があるかな。班で五つ見つけたら座りましょう。

2週目→1・2年生の劇発表（好きな色の蝶になって）

*絵本‘A beautiful butterfly’を参考に、好きな色や模様の蝶の羽を作り、それを身につけながら好きな色や食べ物を言っていく。

3週目→3・4年生が絵を使って詩を書き、5・6年生は、全て英語で詩を書き発表

*自分の書いた詩をほかの学年に児童にも聞いてもらうことで、上級生にとっては活動の意欲付けになり、下級生にとっては、上級生へのあこがれを抱くことにつながる。

②お昼の放送

お昼の放送の時間に、今週のぐんぐんタイムの歌を毎日かけるとともに、週に1度英語クイズを行い、ALTにも登場してもらっている。

③朝のイングリッシュタイム（主に1～4年生）

朝の会の中に、How are you? time, 英語の歌, P.P(パワーポイントタイム)の時間を設定し、学級担任を中心に毎日行っている。ALTと外国語活動担当が週に一度各クラスを回り、共に活動するようにしている。

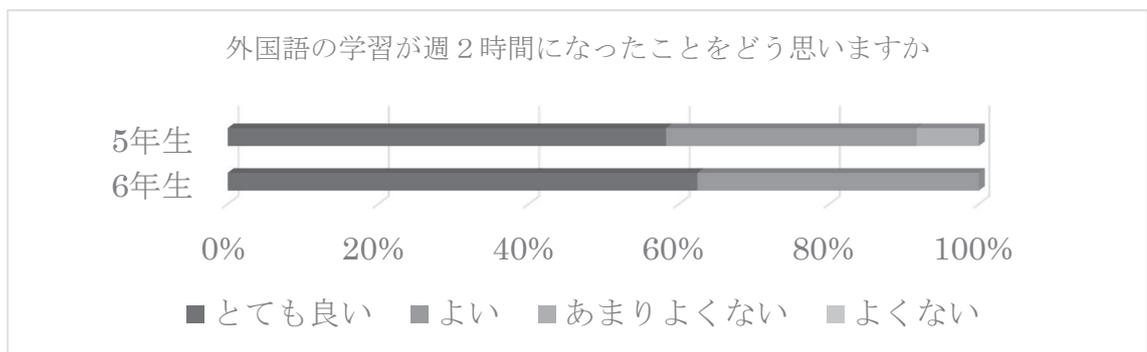
④外国の方との交流

様々な外国の方との実際のコミュニケーションの機会を増やせるように、いろいろな機関と連携し、交流の場を設けている。例えば、高知市のALTとの外国語活動、高知市のCIR（国際交流員）との文化理解体験、地域へ来日したフィリピンからのお客様との音楽交流、高知大短期・長期留学生への地域・学校紹介の活動等がある。

9. 児童へのアンケート調査より

2017年度1学期の教科外国語実践後に、児童に向けて次のようなアンケートを行った。

①アンケート結果①「教科外国語の授業が2時間になったことをどう思いますか」



その理由・・・児童の感想より

5年生

- ・ たくさん覚えられるから
- ・ できることが2倍になったから

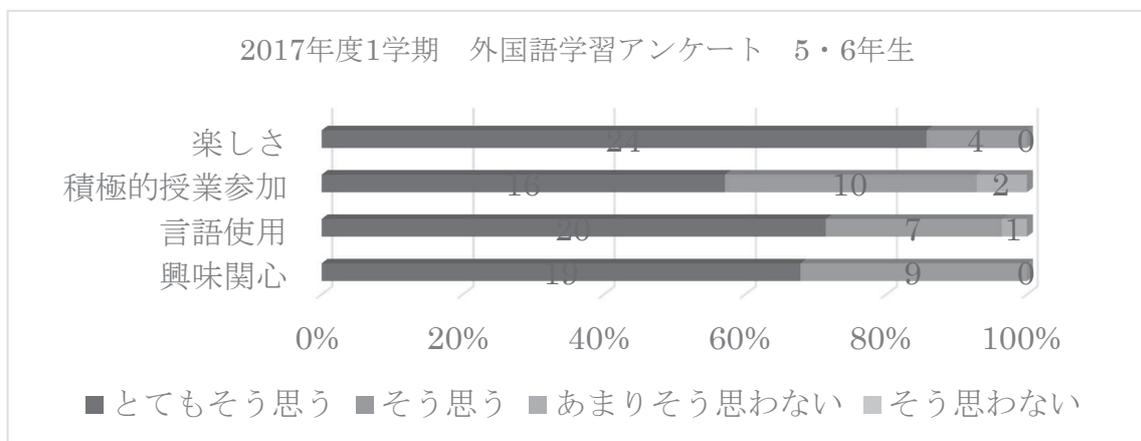
- 将来のために必要だし、何より楽しいから
- 3時間にしてほしい（あまりよくないを選んだ児童）

6年生

- 外国の人と話すことは楽しいので、その練習がいっぱいできるから
- 英語はいろんな「初めて」があり、次の時間がとても楽しみだから
- あまり得意ではないから、2時間もやってくれてありがたい

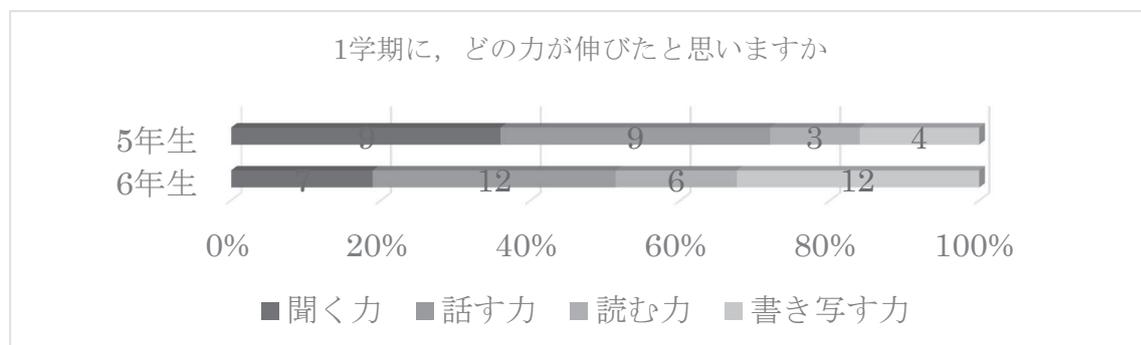
この結果から、児童は外国語活動から教科外国語への移行をスムーズに受け入れており、2時間になったことに対して好意的であることが分かる。

②アンケート結果②



この結果を見ると、肯定的評価は、4項目とも90%を超えているため、本校が狙っている力は概ねついてきていると考える。しかし、積極的に授業に参加する態度については「とてもよい」を選択した児童が他の項目に比べて低い。これは昨年度からの課題であり、これが70%を超えるようにするのが今後の目標である。

③アンケート結果③



その理由・・・児童のアンケートより

5年生

- ・ 土佐山カフェがあったので、「聞く・話す」力が伸びたから
- ・ カフェで食べ終わった人と話したり聞いたりできたから
- ・ メニューを書いたので、書き写す力が伸びたから

6年生

- ・ 話していくうちに英語を覚えて、活用できるようになったから
- ・ 外国の人と話して、話を広げることができるようになったから
- ・ アメリカから来てくれた方にプレゼントを書いたりしたから
- ・ ALTの先生との3分間トークで話が弾んだから

上の結果を見ると、5年生では、話す・聞くに関する力に、6年生では、話す・書き写す力に伸びを感じた児童が多いことが分かる。それぞれの単元で重点を置いたものが関係していると考えられるが、6年生の様子から、学習が進むにつれ、書くことへの興味関心の高まりが感じられた。

10. 指導者への聞き取り調査より

6年生の学級をこの1年半余り共に指導してきた学級担任に、外国語の授業についての聞き取り調査を行った。結果は次のとおりである。

授業時数が増えたことで、「話す・聞く」学習内容が定着できるようになってきた。そのこともあり、楽しく、生き生きと活動できるようになってきた。5年生の時より、ずいぶん自信を持ってできている。

「読む・書く」作業が入ったが、例文を見ながら文章を書くことに大分慣れてきた。書くことへの意欲もあり、楽しそうである。アルファベットだけを書いていただけの頃とは様子がまったく違う。

教科になり、自分は授業の内容も随分難しくなったと感じたが、子どもたちは対応できている。今のような学習を積み重ねることで、中学校英語に対するつまずきが減らせるのではないかと感じている。

覚えて書くことは授業では強制していないが、「もっと書けるようになりたい」と自主学習ノート等を書いて練習する児童も増えてきている。外国語に対する興味関心が高まっていると感じる。

この指導者の意見でも、教科化、時数増加に対して肯定的な見方をしていることが分かる。外国語活動から教科外国語へのスムーズな移行ができれば、このような実感を得ることができるといえることが分かる。

11. 成果と課題

このような実践を通して、よりよい教科「外国語」の学習を行うために大切であると考えたことは次のとおりである。

- ①英語を使って積極的に人と関わろうとする児童・生徒を増やす
- ②外国語活動と中学校英語をつなぐ役目を意識する
- ③どんな力を付けるのか、目標を児童と指導者が共有する
- ④異学年や外国の方との交流活動を積極的に行う
- ⑤1～4年生までの外国語活動を充実させる
- ⑥指導者の英語力を磨く → Almost English を目指して

①、④については、相手意識を持たせた活動を多く仕組んだこと、校内ぐんぐんタイムや外国の方との交流の場を多く設けられ、そこに児童が喜んで参加し、コミュニケーションができたと感じていたことから、ある程度達成できたと考える。

②についても、各時間の目標を整理し、身につける力や定着を意識することである程度達成できたと考える。また、中学校の授業に日常的に参加し、そこで用いられる教科書の内容に目を通し、表現を選ぶ際の参考にすることもできた。

③については、各単元において単元メニューを作成し、常に黒板にも掲示したことで、どんな流れで学習するのか、何ができるようになればこの活動ができるのかを振り返りながら学習を進めることができた。児童のコメントカードにも、次にこうしたいと意見が出ていた。

⑤については、教科外国語の授業に主体的に参画できる児童を育成するという意識を持って外国語活動を行うため、校内の4年生以下の学級担任に教科外国語の目標や学習内容等についての校内研修を行った。本校では、全ての教員が外国語または外国語活動の授業を行っているため、小学校段階でのゴールを意識しながら日々の授業を積み重ねることの重要性を考えることができた。4年生・6年生での授業研究会を行ったことも、意識づけにつながった。

⑥については、大きな課題が残った。これまでの実践を振り返ると、指導者の英語も児童にとっての英語環境の一つであり、外国語の授業では、指導者のできるだけの英語を使って児童と交流することが望ましいと感じる。しかし、未だ英語を話すことへの苦手意識を持っている学級担任は多い。

授業の中での Teacher's talk のコーナーでは、全教員が英語で話をするできるようになった。これは、話す内容がある程度分かっており、事前に準備ができることが大きい。しかし、その他の場面では、即興的に英語が出てこない、との声をよく聞く。本校の目指す単元の内容や授業の流れがある程度決まってきた後は、それを児童とともに行える指導者の指導力とともに英語力の育成につながる研修を計画していきたい。

12. おわりに

昨年度末に教科外国語の年間指導計画や単元名を初めて見た時には、どうやって指導すればよいだろうと外国語教育担当者として不安で胸がいっぱいになっていた。しかし、信頼する先輩の指導者等に「慌てずに、子どもと一緒に創ればよい」という温かい励ましの言葉をいただき、肩の力が取れ、胸のつかえが和らいだことを鮮明に覚えている。

その言葉通り、児童と話し合いながら授業を創り、少しずつ積み重ねてきた。今回の実

実践報告は、その中の一部をまとめたものである。非常につたない実践ではあるが、教科外国語と自分なりに向き合い、試行錯誤を重ねてきたものである。これから教科外国語を始めようという指導者にとって、何かのヒントになれば幸いである。

幸い、本校の児童は外国語の学習を楽しみ、外国の方との交流を待ち望んでいる。しかし、児童の学習の流れと自分の考えが乖離し、成果のあがらない授業をしてしまったことも何度もある。指導者として、これほど情けなく、残念なことはない。そんな時には、ALTや学級担任と何がいけなかったのか、どこを直せば次によくなるかを話し合うようにしている。ともに同じ目線で話し合える仲間がいることは、大きな財産である。これからも、児童生徒の未来への確かな力となる外国語教育を目指して、力を尽くしていきたい。

引用文献

小学校5年生・6年生 外国語年間指導計画例〔素案〕平成29年4月19日 文部科学省